

4月20日(月曜日)「ダビデ(11)喜んで裸踊り」

【新改訳 2017】

II サムエル記6・12-23

「主の箱はダビデの町に入った。サウルの娘ミカルは窓から見おろし、ダビデ王が主の前ではねたり踊ったりしているのを見て……彼をさげすんだ。……それから、ダビデは主の前に、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた。」(16、17節)

アビナダブの家から喜び、踊りながら神の箱を運んでいた時、不敬事件が起こり、オベデ・エドムの家で3か月とどまるハプニングの後、ようやくダビデの町の天幕の中に箱は安置されました。

ダビデは、喜びのあまり裸のような姿になって踊ったのですが、妻の1人ミカルは、その姿を見ていて軽蔑しました。礼拝をした後で家族を祝福するために戻ってきたダビデに、ミカルは、そのことを皮肉たっぷりに伝えました。しかし、ダビデはそんなことでひるむことはありませんでした。信仰で喜ぶ時、彼にとって人の目や口は問題ではありませんでした。単純に、心から喜んだのです。

私たちはどうでしょうか。

～祈り～

主よ。見栄や対面を気にして、ありのままにあなたを喜ぶことを控えて
しまうようなことがありませんように、正直に喜びを表すものとしてく
ださい。

【学びのために】

ミカルはサウル王の娘で、ダビデの妻になりました。後に、ミカルはダ
ビデから離され、他の人の妻となりました。ダビデは彼女を取り返しま
したが、ミカルはこの時ダビデの正直にして単純な信仰の言動を軽蔑
したのです。